

67年間ありがとう熊石高校！ 北海道熊石高等学校閉校記念式典

10月24日、来年3月をもって閉校となる北海道熊石高等学校の閉校記念式典（同校閉校記念事業協賛会主催）が同校で開催され、卒業生や在校生、学校関係者ら約320人が出席しました。式典では、渡辺校長が「ここまで来れたのも全道、全国で活躍されている2,331人の卒業生や本校ゆかりの皆さんのおかげ」と挨拶し、在校生の3年生6人には「仲間の大切さや地域の応援は熊石高校だからこそ体験出来ること。最後まで充実した学生生活を」と語りかけました。生徒を代表して生徒会長の尾形佳乃さんが「最後の熊高生として卒業式まで精一杯過ごしたい。熊高ありがとう」と感謝を述べ、最後は参列者全員で万感の想いを込めて校歌を合唱しました。



トップを狙え！ 第24回シルバーオリンピック

10月26日、総合体育館にて八雲町高齢者生きがいづくり推進事業として第24回シルバーオリンピックが開催され、町内の団体15チーム206名が様々なスポーツ競技を楽しみました。実行委員の竹内委員長は「今年も様々な団体が参加し嬉しい。競技を通して健康づくりと交流を深め楽しんでほしい」と挨拶し、選手は、ビーンボーリングやカローリングなど普段楽しめない競技10種目を楽しみながら競い合いました。優勝した「熊石生きがい学習塾」には、輝かしいトロフィーが授与されました。



北欧生まれのフィットネス！ 開町10年記念事業 第1回 八雲ノルディックウォーキング フェスティバル

10月25日、道立公園噴火湾パノラマパークにて第1回目となる八雲ノルディックウォーキングフェスティバルが開催され、町内外から約210名が参加しました。開町10年を記念したスポーツイベントの最後となる事業で、八雲町ではこの種目初のイベントとなりました。北欧生まれのノルディックウォーキングは、全国に先駆け北海道伊達市の大滝ノルディックウォーキング協会が取り組みを始め、現在では老若男女がポール2本で気軽に取り組みするスポーツとして普及しています。この日は、リレハンメルオリンピックのノルディックスキー複合団体金メダリスト阿部雅司さんによる講習会も開催され、参加者は、悪天候であったものの爽やかな汗を流し、ウォーキングを楽しみました。



元気に育て、サケの稚魚！ 関内小学校サケの人工授精体験学習

10月27日、関内小学校（西田浩人校長 全校児童2人）で、漁業に対する関心を高めるとともに、自然や命の尊さを実感してもらおうと、サケの人工授精体験学習（熊石マリビジョン推進協議会主催）が行われました。昭和59年からはじまった同校の取り組みは、平成29年度の学校統廃合により、今年で最後となるため、今回は雲石小学校や泊川小学校の児童18人も参加しました。はじめに関内小学校の佐藤騎斗くんがサケの人工授精の方法や稚魚放流までの取り組みについて説明し、続いて、講師のひやま漁協佐藤弘副組合長がポウルの中のサケの腹から取り出した約5,000個の卵に白子を噴出させると、児童たちは興味津々の様子で見入っていました。

